

SHOEI SUSTAINABILITY REPORT 2023



株式会社 SHOEI

CONTENTS



第1章 序章

- 1. 経営理念・経営方針とサステナビリティ／ESG03

第2章 ESG経営推進体制とマテリアリティ

- 1. ESG経営の推進体制04
- 2. マテリアリティ(重要課題)の特定05
- 3. 主な取り組み内容08

第3章 社会(S)の取り組み

- 1. 安全基準を満たす品質管理体制09
- 2. 製品開発による付加価値向上13
- 3. 直営店展開による顧客満足度向上と情報収集強化..14
- 4. 職場の労働安全衛生と従業員の健康管理体制15
- 5. 女性管理職比率の向上16
- 6. ふるさと納税制度を活用した地域社会への貢献16

第4章 ガバナンス(G)の取り組み

- 1. 女性役員の登用による多様性の確保17
- 2. 従業員に対するコンプライアンス体制の強化18
- 3. IR活動による投資家とのコミュニケーション強化19
- 4. 取締役会の実効性評価19

第5章 環境(E)の取り組み

- 1. EV/PHV用充電器の設置によるエコカー導入促進20
- 2. 太陽光パネル導入による再生可能エネルギーの活用..21

付属資料

- 1. ESG外部評価22
- 2. 会社概要23
- 3. グローバルブランド24

第1章 序章



1. 経営理念・経営方針とESG

企業の存在意義である経営理念を踏まえた経営方針を以下の通り策定しております。その中でサステナブル（持続可能）な活動を行うことで企業価値の向上を目指す観点から、「ESGを意識した経営の強化」も重要な経営方針の一つとしております。

【経営理念】

「Quality & Value」を追求



お客様に安全・快適で楽しい
二輪車を始めとするモビリティ
生活を提供する



【経営方針】

1. 健全な財務体質により事業継続を長期にコミットする

- ・企業収益及びステークホルダーへの利益還元を重視するのと同様に、高い自己資本比率の維持を目指す
- ・経済危機や自然災害などの不測の事態でも、ブランドを棄損せず終息まで耐え抜く体力を備える
- ・M&Aや新事業の展開において、迅速な決定・対応を可能とする
- ・**ESG(環境・社会・ガバナンス)を意識した経営強化**

2. Made in Japan で勝負する

- ・当社の最大の資産は過去60年余年で築き上げたブランド
- ・ブランドを高く維持し、競争力を保ち続ける為にMade in Japan で闘う

3. お客様の声に耳を傾ける

- ・市場のニーズに対し、真摯であることが成功への鍵
- ・業界を率先して商品化を行う

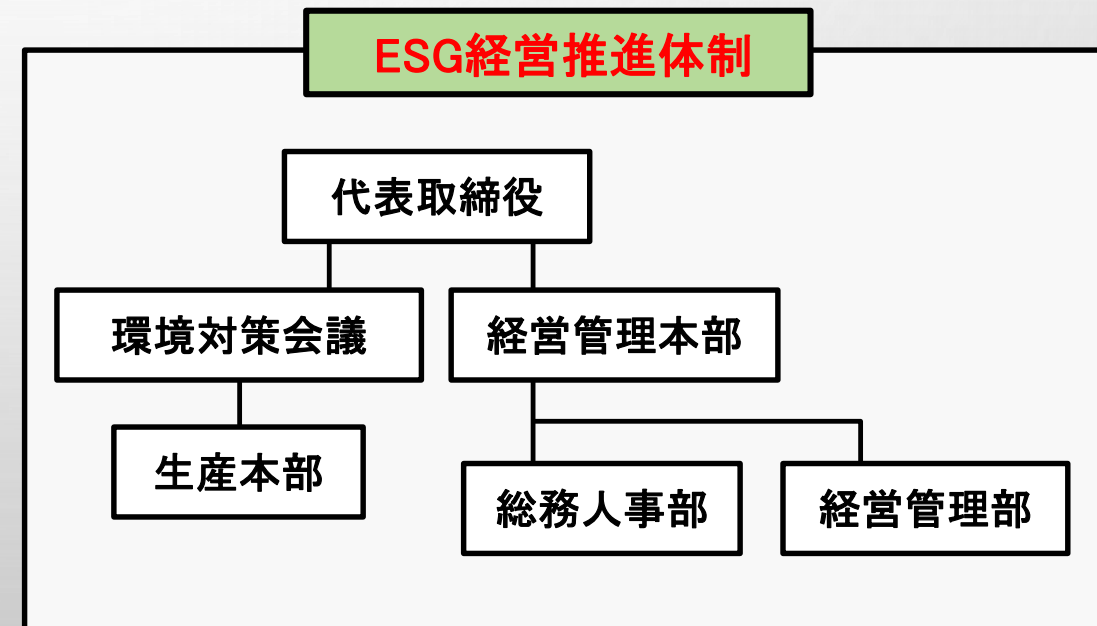
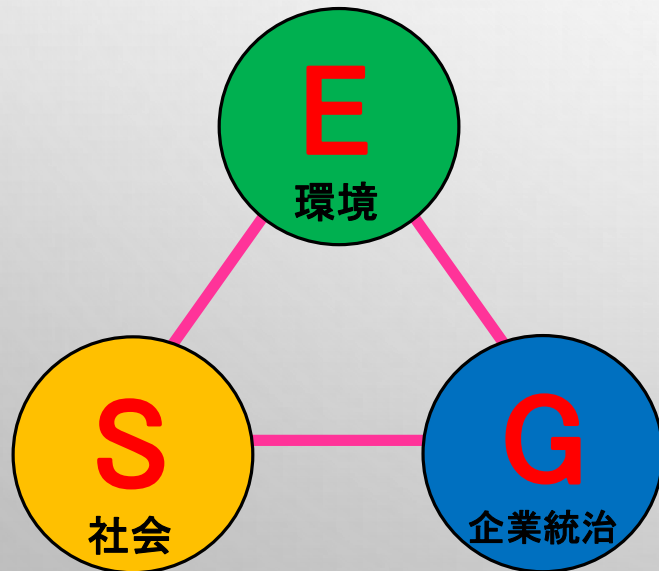
第2章 ESG経営推進体制とマテリアリティ

1. ESG経営の推進体制

E (環境)・S (社会)・G (ガバナンス(企業統治)) それぞれの課題に対応する為、代表取締役社長のもとESG経営推進の事務局を経営管理本部に置き、関係各部と連携を取る体制としています。

また、環境への取り組みに関しては、代表取締役社長をトップとし、生産本部等の関係者含む環境対策会議を設置し、出来ることからスピード感をもって取り組む体制を取っています。

そのうえで、重要な方針や取り組みについては、適宜、取締役会や経営会議に報告しております。



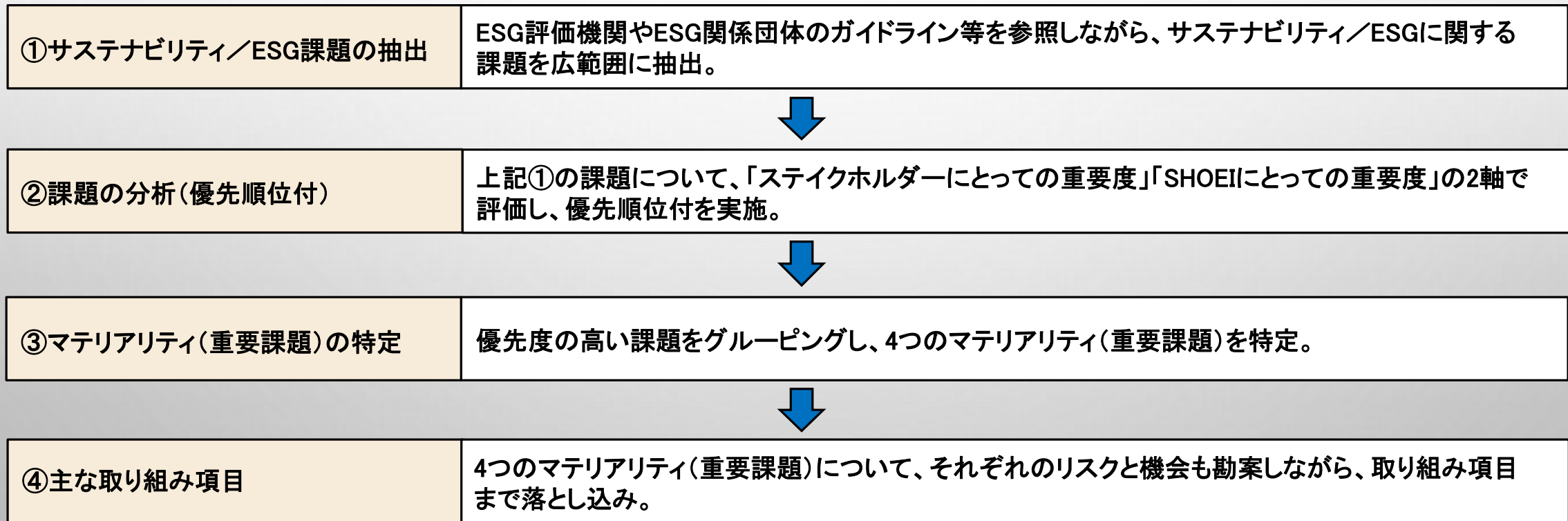
第2章 ESG経営推進体制とマテリアリティ



2. マテリアリティ(重要課題)の特定

マテリアリティ(重要課題)の特定を以下の手順で行い、今後のESG経営強化のために取り組むべき課題を確認しました。

マテリアリティ(重要課題)特定のプロセス



第2章 ESG経営推進体制とマテリアリティ



2. マテリアリティ(重要課題)の特定(続き)

①サステナビリティ/ESG課題の抽出

様々な機関のガイドライン等を参照し、サステナビリティ・ESGに関する課題を広範囲に抽出。
(右図ご参照)

ESG	テーマ	ESG重要項目	(略称)
環境 <E>	気候変動	二酸化炭素排出量	E①
		カーボンフットプリント	E②
		環境配慮	E③
		気候変動に伴う脆弱性	E④
	天然資源	水の安全保障	E⑤
		生物多様性と土地利用	E⑥
		原材料の調達	E⑦
	汚染と廃棄物・資源利用	有害物質の排出と廃棄	E⑧
		電気廃棄物 包装材と廃棄物	E⑨ E⑩
	環境に関する機会	グリーンテクノロジーでの機会	E⑪
		グリーンビルディングでの機会	E⑫
		再生可能エネルギーでの機会	E⑬
	社会 <S>	人的資本	労務管理
健康と安全			S②
人的資本の開発			S③
サプライチェーン労働基準法			S④
人権と地域社会			S⑤
商品への責任		製品の安全性と品質	S⑥
		化学的安全性	S⑦
		金融商品の安全性	S⑧
		プライバシーとデータセキュリティ	S⑨
		責任ある投資	S⑩
		健康・人口動態リスク	S⑪
ステークホルダーからの反動運動		物議をかもしずーシング	S⑫
		コミュニケーションへのアクセス	S⑬
		財務へのアクセス	S⑭
		ヘルスケアへのアクセス	S⑮
		栄養と健康における機会	S⑯
		顧客に対する責任	S⑰
ガバナンス <G>	コーポレートガバナンス	取締役	G①
		報酬	G②
		オーナーシップ	G③
		会計	G④
	企業活動	企業倫理	G⑤
		競争阻害行為	G⑥
		税の透明性	G⑦
		汚職・腐敗の防止	G⑧
		金融システムの不安定さ	G⑨
		リスクマネジメント	G⑩
		グローバル・コンパクトへの署名	G⑪
		ESGレポートの証明	G⑫
		ESGガバナンス	G⑬
		ロビー活動と政治資金	G⑭

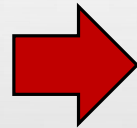
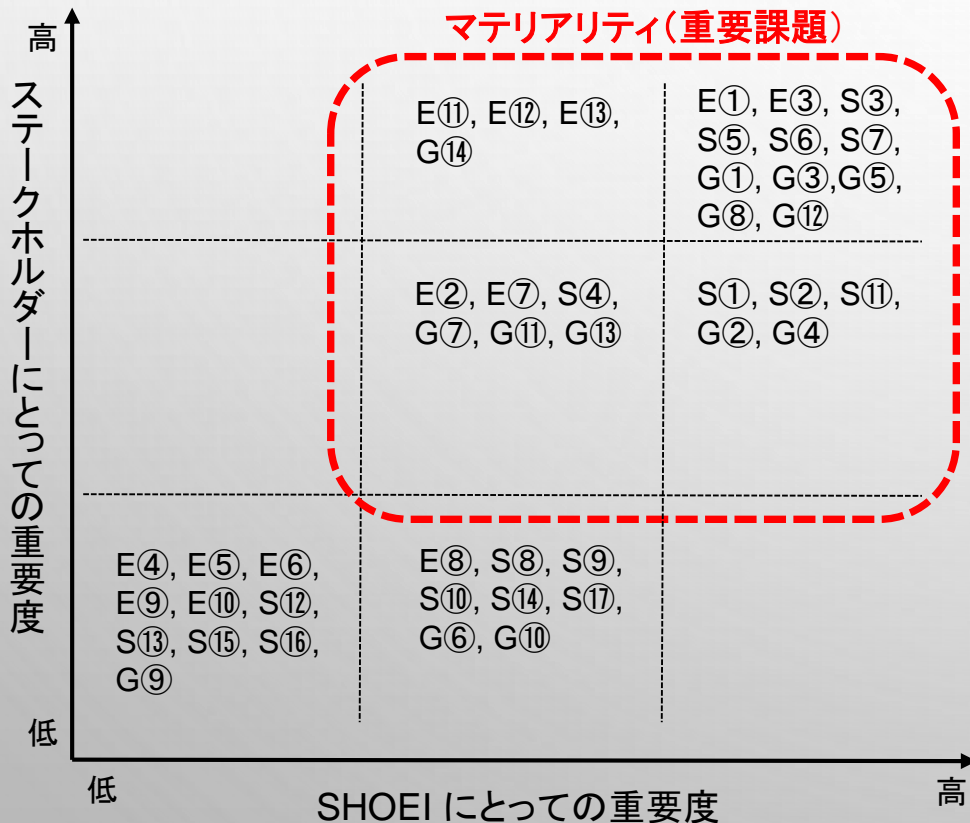
第2章 ESG経営推進体制とマテリアリティ



2. マテリアリティ(重要課題)の特定(続き)

②課題の分析(優先順位付); 選定された社会課題について、ステークホルダーにとって重要かつSHOEIの経営にとっても重要であると判断した課題を以下の通り特定しました(赤枠の点線内)。

③マテリアリティ(重要課題)の特定; 上記②の内容から、当社のマテリアリティの方針を4項目にまとめました。



当社のマテリアリティ

1. お客様に安全・快適で楽しい二輪車を始めとするモビリティ生活を提供する
2. 社員が安心して活躍出来る職場作りと地域社会への貢献
3. 社会的責任を意識したガバナンス体制の強化
4. 気候変動問題への適切な対応と循環型経済社会への貢献

第2章 ESG経営推進体制とマテリアリティ

3. 主な取り組み内容

特定したマテリアリティ(重要課題)について、リスクと機会を勘案しながら、主な取り組み内容を以下に纏めました。各々の詳細内容につきましては、次章以降にて順次説明致します。

マテリアリティ	ESG	ESG重要取り組み項目	リスクと機会	主な取り組み内容
お客様に安全・快適で楽しい二輪車を始めとするモビリティ生活を提供する	社会 <S>	<ul style="list-style-type: none"> 安全性と品質の向上 製品の付加価値を高める開発 顧客が満足するデザインや機能性の追求 	<p><リスク></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全基準の未充足による信用失墜 品質悪化によるブランド力の低下 <p><機会></p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客が求めるデザインや機能を備えた製品提供によるシェア向上 新技術を活用して付加価値を上げることで顧客層の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 安全基準を常に満たす品質管理体制の維持強化：(1) 快適さや楽しさを意識した製品開発による付加価値向上：(2) 顧客が満足するデザインや機能性の情報収集の強化：(3)
社員が安心して活躍出来る職場作りと地域社会への貢献	社会 <S>	<ul style="list-style-type: none"> 労務管理と健康管理による快適な職場作り 多様性を取り入れた人的資本の有効活用 従業員が生活する地域社会への貢献 	<p><リスク></p> <ul style="list-style-type: none"> 労災などの重大事故の発生 心身の健康状態の悪化 優秀な従業員が流出することによる人的損失 <p><機会></p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な人材が活躍出来る職場環境の整備による優秀な人材の確保 地元の活性化により、質の高い労働力の継続的な確保 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な職場環境を維持するための体制継続：(4) メンタルヘルスを保つための体制整備：(5) 女性管理職比率を高める目標設定と取り組み強化：(6) 企業版ふるさと納税とふるさと納税制度等を活用し、地元の活性化に資する財源の提供：(7)
社会的責任を意識したガバナンス体制の強化	ガバナンス <G>	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーを意識した透明性のある経営 コンプライアンスの徹底 	<p><リスク></p> <ul style="list-style-type: none"> 法令違反によるレピュテーションの低下 重大なコンプライアンス違反による企業価値の毀損 <p><機会></p> <ul style="list-style-type: none"> 実効性の高いコーポレートガバナンスの実現と継続的な改善を通じた企業価値の持続的向上 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を確保する為、女性役員の継続的登用：(8) 全従業員に対するコンプライアンス研修体制の強化：(9) 投資家とのコミュニケーション強化：(10) 取締役会の実効性評価を実施、継続：(11)
気候変動問題への適切な対応と循環型経済社会への貢献	環境 <E>	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量の削減 再生可能エネルギーの活用 原材料や製品のリサイクル・リユース等による環境配慮 	<p><リスク></p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の進展による地球環境の悪化 環境対策の遅れによるレピュテーション低下 <p><機会></p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的なエネルギー利用によるコスト削減 リサイクル・リユースによる廃棄物の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員向けEV/PHV 充電器設置によるエコカーの導入促進：(12) 太陽光パネルの導入による再生可能エネルギーの有効活用：(13)

第3章 社会(S)の取り組み

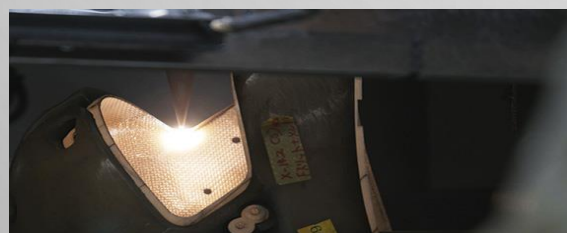


1. 安全性と品質の向上:安全基準を常に満たす品質管理体制(製造工程):(1)

ヘルメット製造工程の基本的な流れは、成形工程⇒塗装工程⇒組立工程⇒出荷となります。ヘルメットは、ライダーの安全を守る保護具である以上、たった一つでも安全基準を下回る製品が流通することがあってはなりません。そのため、工場から出荷されるすべての製品が安全基準を満たすように厳格に品質管理されています。

以下の写真は、ヘルメットのベースとなるシェル(帽体)の成形・仕上工程でヘルメットの骨格を形作った後、厚みや重量などを全数検査している作業となります。製品の品質の安全基準を満たす上で非常に重要な工程であり、検査基準に合格したものだけが次の塗装工程に進みます。

なお、塗装工程・組立工程をそれぞれ終えた段階においても、仕上がり面での品質チェックが何度も行われ、梱包段階における最終検査を受けて、これを通過したヘルメットが出荷されていきます。



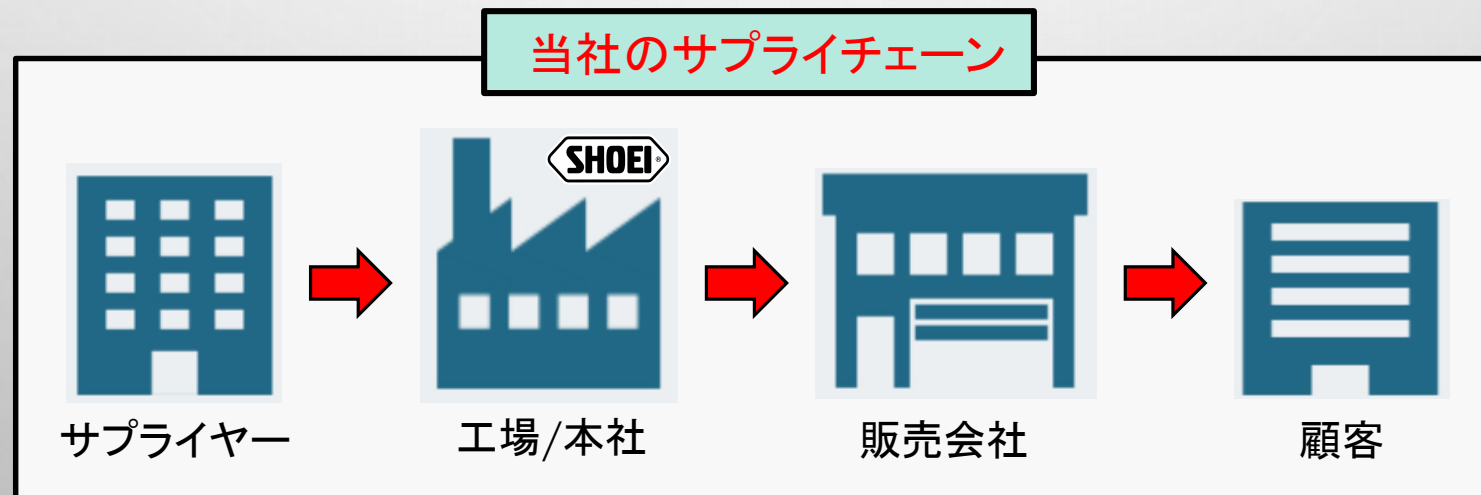
第3章 社会(S)の取り組み

1. 安全性と品質の向上:安全基準を常に満たす品質管理体制(サプライヤー):(1)

当社が仕入れる原材料や加工品の品質も重要であり、当社とサプライヤーとの基本契約には、材料供給及び製品品質維持の遵守を記載しております。

上記が遵守されているかにつきましては、3年に1度の頻度で、品質・価格・納期等の項目で監査を実施しています。例えば、作業場、倉庫等の整理整頓、機器の保守管理、仕様書に基づく作業工程の遵守、安定した品質での生産維持等について監査を実施します。

また、品質の維持・向上、及び、コストダウンのため、サプライヤーの生産技術・設備など経営管理全般のサポートも必要に応じて実施し、原材料や加工品の高い品質水準を維持しております。



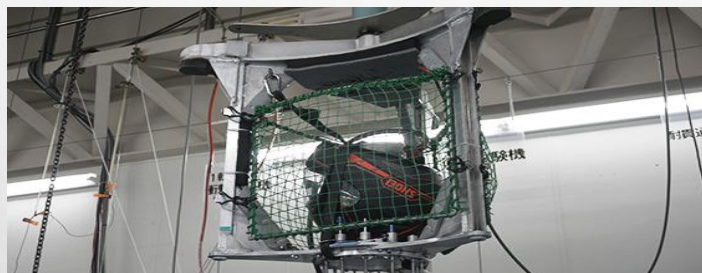
第3章 社会(S)の取り組み



1. 安全性と品質の向上:安全基準を常に満たす品質管理体制(完成品検査):(1)続き

完成したヘルメットにおいても、品質管理部が一定の割合で定期的に完成品の抜き取り検査を実施し、製造工程後もダブルチェックで万全の品質管理体制を確立しております。

完成品の抜き取り検査では、年間約3,000個ものヘルメットについて衝突試験等を行い、試験に使用した大量の製品は市場に並ぶことなく廃棄されることとなります。しかし、ライダーの手元に届くことのなかったこれらの製品も、SHOEI が理想とする品質を維持するための大切なヘルメットなのです。



第3章 社会(S)の取り組み



1. 安全性と品質の向上:安全基準を常に満たす品質管理体制(安全規格取得と外部評価):(1)続き

ヘルメットの開発段階で大前提となるのが、各国・各地域で定められている安全規格(日本向けJIS規格、欧州向けECE R22/06規格など)を取得することです。デザインコンセプトを崩すことなく、確かな安全性を持つヘルメットを開発するために、各国・各地域向けに徹底した品質管理体制を構築し、必要な安全規格を取得しています。

当社は2022年10月、それまで生産本部の下にあった品質関連部署を、社長直轄の品質保証部と生産本部の品質管理部に分けました。それにより、品質保証部が独立性を保ち、品質管理部の業務を監視することで、盤石の品質管理体制を構築します。

なお、当社は、国際標準化機構(ISO)が定める品質マネジメントシステムであるISO 9001の取得はしていませんが、ISO 9001に準拠した品質管理体制を取っており、当社のECE R22/06規格を検査する第三者認証機関より、ISO 9001:2015 と同等の品質マネジメントシステムを有している評価を得ております。



Vias institute SC agréée comme ES
Chaussée de Haecht 1405 - B-1130 Bruxelles
Téléphone 02/244.15.11 - Téléfax 02/216.43.42
E-mail : info@vias.be - Internet : www.vias.be
TVA BE 432.570.411

Brussels, 27th of July 2023

The Vias institute is the technical service (test laboratory) assigned by the Belgian Ministry of Transport for testing protective helmets for drivers and passengers of motorcycles according to the regulation ECE R22-06 of Geneva.

Within the framework of the Conformity of Production as mentioned in the Regulation ECE R22-06 of Geneva, the Vias institute considers the Shoei Company equivalent to an organization having the certification of ISO9001:2015.


K-T. LY
Head of Laboratory

第3章 社会(S)の取り組み

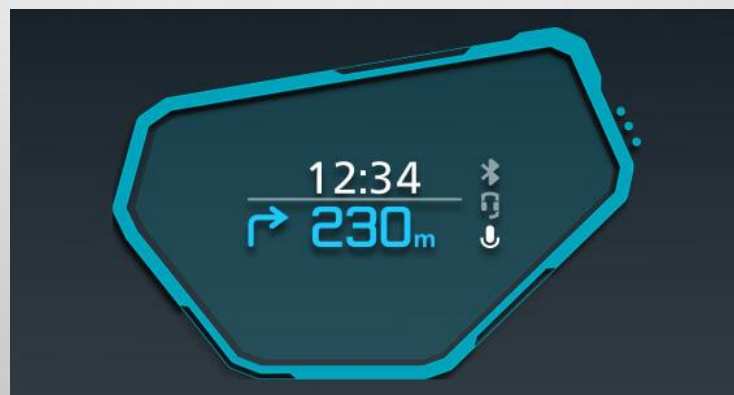


2. 製品の付加価値を高める開発: 快適さや楽しさを意識した製品開発による付加価値向上(2)

ヘルメットの安全・快適・楽しさを追求するため、業界を率先して新しいチャレンジを続けます。一例として、SHOEI が先進技術を駆使した新規製品として、新時代のヘッドアップディスプレイ(HUD)内蔵ヘルメット「OPTICSON」を開発しました。「OPTICSON」は、より豊かな「未来」のバイクライフを創造します。



スマートフォンとHUDをBluetoothで接続し、専用ナビゲーションアプリによるルート案内や電話発着信などの情報をヘルメットのディスプレイ上に投影することが可能となります。ライディングを新たな形でサポートする「OPTICSON」は、より豊かな「未来」のバイクライフを創造します。また、重量バランスにも最新の注意を払い、プレミアムヘルメットブランドならではの快適な被り心地を実現しました。



ナビゲーション表示イメージ

- 目的地到達推定時刻
- 経由地到着時刻
- 交差点名称
- 次の案内通知
- 目的地残距離
- 経由地残距離
- 電話発着信
- 時計

第3章 社会(S)の取り組み



3. 顧客が満足するデザインや機能性の追求:直営店展開による顧客満足度の向上と情報収集強化:(3)

ユーザーと近い距離間で、顧客満足を高めること、お客様の声を直接頂くことを目的として開設したSHOEI 直営店 (SHOEI Gallery)を展開しています。SHOEI Galleryでは、ヘルメットの展示だけでなく販売や各種修理をはじめ、一人一人の頭部の形状を計測することでお客さまに最適な被り心地に調整するPFS(パーソナルフィッティングシステム)も提供しております。また、SHOEI 契約ライダーの本人用ヘルメットや写真を展示している他、SHOEI Gallery限定のオリジナルグッズの販売も行っております。

現在、日本全国5店舗(東京・大阪・横浜・京都・福岡)でSHOEI Galleryを展開しており、海外においてはフランスの子会社が運営する店舗をパリにオープンしました。今後も随時店舗の拡大を進めます。



内装調整サービス
Personal Fitting System



SHOEI Gallery TOKYO



SHOEI Gallery PARIS

第3章 社会(S)の取り組み

4. 職場の労働安全衛生と従業員の健康管理体制: (4) (5)

＜当社での取り組み＞

従業員の安全確保のために安全衛生委員会を設置しています。労働災害を無くすべく定期的に議論を重ね、作業環境測定を行うなど職場の安全に向けた仕組み作りを推進しております。

また、今後も従業員と適時面談を通して適正な人事評価を行うこと、従業員組合からの待遇改善要求を真摯に検討し、必要な待遇改善を実施するなど、心身の健康管理においても安心して働ける職場を目指しております。



＜海外の外注先における労働安全面の遵守状況＞

当社では、一部の縫製工程を海外の日系企業に外注しています。海外の外注先は、国際労働機関(ILO)の基準をクリアした外部監査を2年に1回受けていること、特に、右表の項目は該当がないことを確認しております。

項目	有無
強制労働	無
虐待やハラスメントなど過酷で非人道的な扱い	無
児童労働	無
危険な環境での労働	無
差別	無

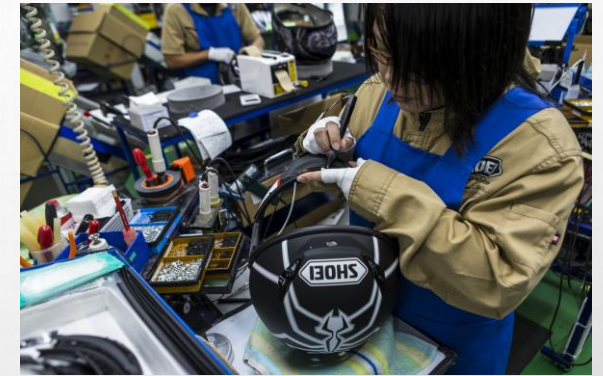
第3章 社会(S)の取り組み

5. 女性管理職比率の向上:(6)

従来より仕事と家庭生活の両立が可能となる職場作りを進めており、女性が活躍できる環境の創設に取り組んでおります。さらに、2028年3月までに「女性管理職(課長職以上)の割合を8%以上」を目標に女性管理職比率の向上を目指します。

＜主な取組内容＞

- ①男女公正な昇進基準となっているか検証を行い、必要に応じて基準の見直しを行う
(2023年4月～)
- ②管理職候補となる男女社員に対して育成面談を行う
(2024年4月～)
- ③様々な社員教育制度を拡充し、将来のリーダー育成に努める
(2024年10月～)



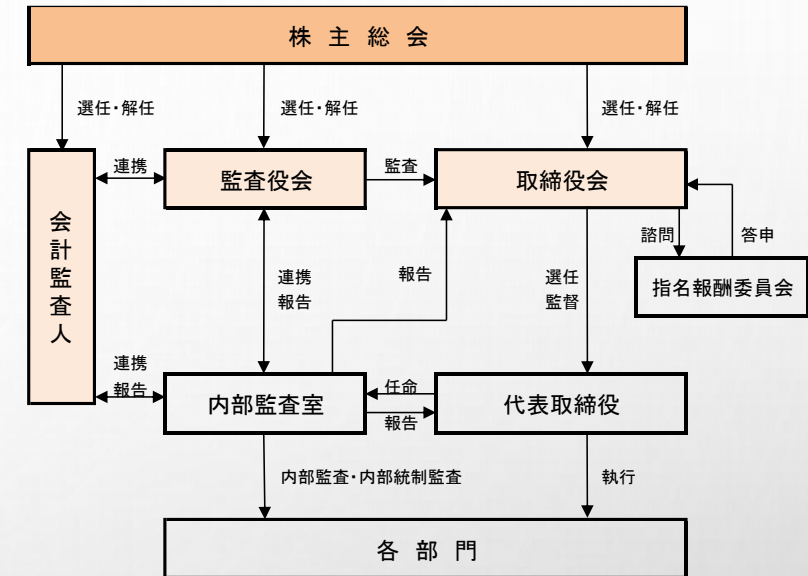
6. ふるさと納税制度を活用した地域社会への貢献:(7)

地域社会への貢献を目的として、工場所在地の茨城県稲敷市と岩手県一関市それぞれに企業版ふるさと納税として2023年も1億円の寄付を行いました。また、通常のふるさと納税の返礼品として当社ヘルメットを提供しております。今後も地域活性化及び次世代教育の充実に向けて、当社が出来る範囲で貢献していきます。

第4章 ガバナンス(G)の取り組み

当社のコーポレートガバナンスに関して、取締役会は、社外取締役2名を含む6名の実務取締役、社外監査役2名を含む3名の監査役で構成されています(2023年12月22日以降)。取締役会は迅速かつ的確な運営・監督機関、かつ、監査役会は監査役がそれぞれの専門知識を活かした監視機関として、公平性・透明性のあるガバナンス体制を取っています。

また、2021年12月に過半数を社外取締役で構成され、社外取締役を委員長とする指名報酬委員会を設置し、取締役の指名・報酬に関する事項等について適正な審議を行い、取締役会への答申を行っております。



1. 女性役員の登用による多様性の確保：(8)

多様性の確保が持続的な企業価値の向上に必要であり、女性役員の登用も重要であると認識しております。そこで、2022年12月に社外取締役として女性取締役を選任し、社外監査役におきましても、2023年12月に1名の女性監査役の就任を予定しております。



第4章 ガバナンス(G)の取り組み

2. 従業員に対するコンプライアンス体制の強化:(9)

風通しが良く、社員が安心して働ける職場作りに向けたガバナンス体制を構築するために、社内ルールを順守し、高い倫理観を持って行動するという観点から、コンプライアンス規程および行動指針を定めております。

また、社員の人権を尊重し、あらゆるハラスメントの予防・防止への取り組みに向けて、2022年4月に新たに内部通報制度（通称“従業員ホットライン”）を設けております。従業員ホットライン設置の目的は、社員等の不正行為に関する通報およびコンプライアンス違反や不正行為の未然防止となります。通報窓口は、当社の顧問弁護士ではない外部法律事務所に委託しておりますので、従業員は安心して従業員ホットラインを利用して相談を行うことが可能となります。

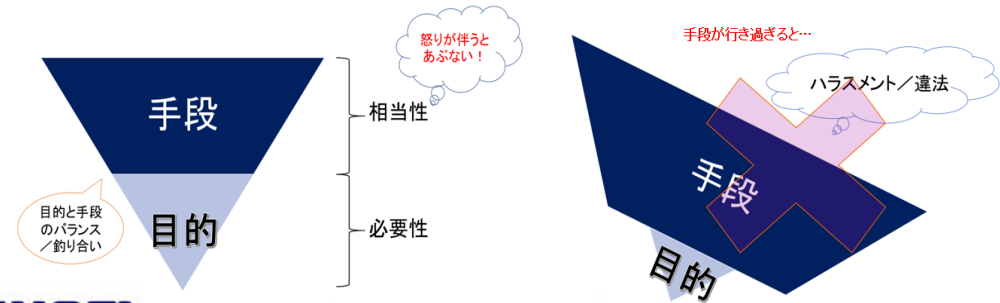
さらに、より良い職場環境の構築に向けて様々な資料を作成し、社内で定期的にコンプライアンス研修を行っております。

今後もコンプライアンス経営体制強化の施策を進めて参ります。

4. ハラスメントについて普段心がけることは？

- 「必要性」と「相当性」(=**目的と手段の釣り合い**)を常に念頭におく
 - ✓ 人格否定の言動、差別的言動、暴力などは**一発アウト**
 - ✓ 感情(特に怒り)を感じた場合は**時間(一呼吸)を置く**

普段からコミュニケーションを図り、目的を伝える



第4章 ガバナンス(G)の取り組み

3. IR活動による投資家とのコミュニケーション強化:(10)

サステナビリティ/ESGの観点からも、投資家との対話は重要であると認識しております。そこで投資家とのコミュニケーションを強化しており、開示資料を充実させつつ、定時株主総会や決算説明会での投資家との対話に加え、年間150件程度の取材を受けるなどのIR活動を実施しております。

実際、上記の活動による意見交換やアドバイスは、当社がESGの取り組みを強化するうえで非常に役立っております(例:従業員向け譲渡制限付株式制度の導入、指名報酬委員会の設置、女性取締役の選任など)。



4. 取締役会の実効性評価:(11)

当社では、透明性が高く、実効性のある経営体制を目指し、コーポレートガバナンスの高度化を常に模索しております。ガバナンス強化の取り組みの一つとして、取締役会がその機能をより高い水準で発揮し経営の高度化を推進する為、外部の客観的な視点を取り入れ取締役会の実効性評価を導入することを検討していきます。

当社ではこれに留まらず今後の適切なコーポレートガバナンスを確保し、より透明性の高い経営体制を目指し、経営体制の進化・深化に取り組んでいく予定であります。

第5章 環境(E)の取り組み

当社は、ジャストインタイムシステムによる改善活動を経常的に行っており、様々な工程で生産効率を上げることによって省資源・省エネルギー化につながる取り組みも日々議論され、実行されています。

また、地球温暖化防止の観点から、CO2排出量を減らすべく、出来ることから実行しております。当社では、CO2排出量の大きい動力源を電気、重油(ボイラー)、ガソリン(工場従業員の通勤車)と分析し、対応を進めています。

1. EV/PHV用充電器の設置によるエコカー導入促進:(12)

役職員通勤向けのEV/PHV用充電器設備を両工場に設置しました。社員に電気自動車での通勤を促し、CO2排出量の抑制による脱炭素社会実現に向けた環境問題への取り組みに配慮しております。



なお、充電にかかる費用は、社員の負担にはならず、常時利用が可能となります。政府が掲げる電気自動車のさらなる普及の実現に向けて当社も前向きに取り組んでおります。



第5章 環境(E)の取り組み

2. 太陽光パネル導入による再生可能エネルギーの活用:(13)

茨城工場及び岩手工場において、PPAモデル*による太陽光発電電力を2024年5月より導入・稼働開始する予定です。本取り組みにより、年間約267tのCO2排出量を削減するとともに、両工場の使用電力の再生可能エネルギー比率は現状の約13%から約19%に向上する見込みです。

*PPAはPower Purchase Agreement(電力購入契約)の略であり、PPAモデルとは、PPA事業者が電力需要家の敷地や屋根等に太陽光発電設備を無償で設置し、そこで発電した電力を電力需要家に販売する事業モデル。



[茨城工場(黄色い丸がパネル設置予定箇所)]



[岩手工場(同左)]



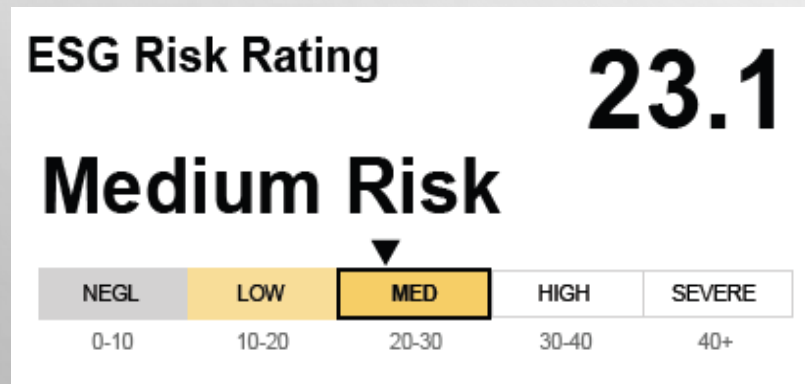
1. ESG外部評価



MSCI ESG格付け“BB”評価

米国のESG格付け機関であるMSCIよりBB評価を取得しております。今後、更なる評価の獲得を目指して引き続きESG対策に取り組んで参ります。

(2023年6月時点)



SUSTAINALYTICS ESG格付け“ミディアムリスク”評価

オランダのESG格付け機関であるSUSTAINALYTICSよりESGリスク評価において、ミディアム（中）リスクの評価を得ております。より低いリスク評価の取得を目指して更なるESG管理体制を構築していく所存であります。

(2023年7月時点)

付属資料



2. 会社概要

社名	株式会社SHOEI	
設立年月日	1959年3月17日	
グループ売上高	336億16百万円（2023年9月期）	
資本金	14億2千1百万円	
代表者	代表取締役社長 石田 健一郎	
従業員数	785名（正社員521名）	
本社所在地	〒110-0016 東京都台東区台東一丁目31番7号（PMO秋葉原北8階）	
工場所在地	茨城工場	〒300-0525 茨城県稲敷市羽賀1793番地1
	岩手工場	〒029-3404 岩手県一関市藤沢町徳田字野岡27-1
ショールーム所在地	SHOEI Gallery TOKYO	〒101-0021 東京都千代田区外神田二丁目15番2号新神田ビル
	SHOEI Gallery OSAKA	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-11-8 セントアネックスビル
	SHOEI Gallery YOKOHAMA	〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町27 プロシード山下公園ザ・タワー2階
	SHOEI Gallery KYOTO	〒604-8214 京都市中京区新町通錦小路上る百足屋町385番地3 リヒトサル1階
	SHOEI Gallery FUKUOKA	〒810-0011 福岡県福岡市中央区高砂2-1-4 オーキッドプレイス天神南
子会社	ドイツ	SHOEI (EUROPA) GMBH SHOEI DISTRIBUTION GMBH
	フランス	SHOEI EUROPE DISTRIBUTION SARL
	イタリア	SHOEI ITALIA S.R.L.
	タイ	SHOEI ASIA CO.,LTD.
	日本	株式会社SHOEI SALES JAPAN
	中国	首維（上海）摩托車用品有限公司



（2023年10月時点）

付属資料



3. グローバルブランド

世界市場で約800億円を有する高級ブランド市場であるプレミアムヘルメットにおいて、メーカー別売上高の約60%以上を占めるのがSHOEIです。その揺るぎないブランド力の基で一層の拡販強化を図り、世界中でトップシェアを維持できるようにこれからも邁進していきます。



No.1



(2021年9月時点)
* SHOEI推定

SHOEIのヘルメットは、世界50ヶ国を超える国々でライダーに使用され、高級ヘルメットとして数々の一流レーサーに愛されております。欧米においてもトップシェアを誇るなど、高品質と安全の代名詞であり、所持することがライダーの誇りでありステータスとなっています。

SHOEI SUSTAINABILITY REPORT 2023



株式会社 SHOEI

〒110-0016
東京都台東区台東1-31-7
PMO秋葉原北8階
TEL : 03-5688-5160 (代)
<http://www.shoei.com/>